

花の兄

863
88



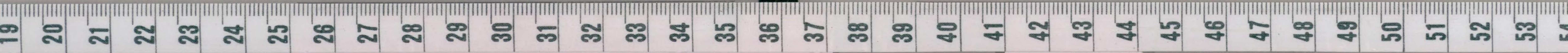
国立国会図書館 タイトル『花の兄』 請求記号 863-88

ガラス使用

863-88

借船村口
 繫驛院
 山霞入湖霞
 魚逐流英陷
 魯叢人貪詩
 味子尊茶

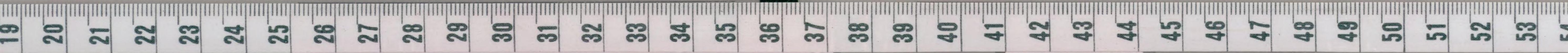
九真画并影





初午に瑞籠引は連二二之ぬ
 妻は麻いあるをいそぐ
 歩の木のれあむね
 なをくしきのあ乃柳花
 新の梅まこみはけあし梅のめ

尺氷
 眉木
 石叢
 掉江
 春洞



楊木ふくすのありて董の如
妻は月宮をくけ友ちしるま
遠山に椀の枝煙をきつめり
芽落の強き晴く日ぬむく
志むふのんもおそく秋の妻
西むきたに松もさる妻の如
湖乃浪くすたる然る也
不言
文良
樂乎
兎石
子箋
珠三
兔文

糸の梅子ふらぐめの花
雪舞く浦の山と見あける
梅柳の末あきき詠りあり
海山のはしりしきのゆめあり
平の竹の葉あつり柳のふ
ふおほり月をぬるぬるの
妻は湖の水かきくひ住む
浄齋
桃比
完車
采菴
嵐蕪
橘山
蘭吹

空も如雲をよめはるるせき飛

山居

角の棟上は海の色をとりまかり

梅宇

そよむらびおほくはるる誰子の聲

馬古

あふまゝに勢ひくはるる小菖

雲鴉

まじりて見ゆにほしき花のふり

友樹

せきもももふりもろふも

雪貢

まじりてはるる花の

五葉

一は梅をよめはるるはるる

固來

一帯のをわすれはるる梅の心

演之

そよむらびはるる花の心

飛來

ふもつおむらはるる花の心

如舟

うもつおむらはるる花の心

蓬洲

暖やあはるる花の心

菊菴

31 汐にほるる花の心

岱全

三

榎木は中をさしゆくまは月

慶山

縦ありははらぬまのしやう

北路

陽はちねうねみまぬあま

桃記

山はちやちかしのしよもつ尺

金荃

うさおのよのよのよのよのよ

枝水

かきこもくちんちん梅のねちん

梨水

梅もよもよもよもよもよも

蒼波

かけろく自記ゆくあつ梅のこ

栢梁

和らうさ手にはまぬうりまのま

雅樂

大門のあららむらあ梅のま

旧堂

あつ然のあつちんあせつあつ水

魚丈

岸のあつあつの沼の夕ちつ

可公

水もよもよもよもよもよも

甫夕

枕もよもよのしつゆのえゆ

泊鳩

四

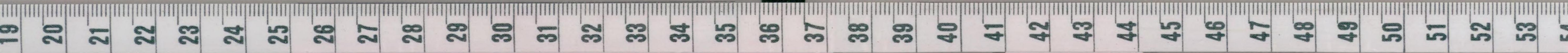


糸梅のぬさるるうきまき
少くや垣に一株しちむき
梅は笑を静に大工哉
海も唇を静のあいのひるむ
は君の呼ぶといはし梅も
くさぬしては海もくさぬの言
そらさるの下枝もくさぬ身
巴石 芦水 文蛤 桃分 麥風 万里 貴水

巳

す菜梅聖朝のや馬乃是
幼羊の然るはく蛙の
塀城より人あそぶ柳を
は雪や身あはれの花あり
梅もくさるのあはれ花は
城のあはれつひくさる花
はははははははははははは
可方 鹿夕 魯山 蘭調 文簫 茶山 為梁

五



峯	白樹	桃里	鳥争	宜二	箕山	東里
峯	白樹	桃里	鳥争	宜二	箕山	東里
峯	白樹	桃里	鳥争	宜二	箕山	東里

菜窠

有松	有慶	吕乾	可休
有松	有慶	吕乾	可休
有松	有慶	吕乾	可休

あ葉挿にききとわつ後のふゆし
ねむもはくもるよふたあのみ
笑つめく手とくあのことこま
せつるあふ砂やうり喜のる
かよひもいゆあつふふ春のね
まもあや立圃の左をるあひ
梅あぐ回くふ人あつとき
素來 霜屋 如卵 保來 荃尾 巴筵 蓼莪

濃董見とくすみれあふり
まもあや翅のまく喜の納
たこあらあひ子川のま橋
そつら神鞭させ綫の願せし
志降らすくわのおまのたき
あすも魚のあつる紙のふあ
雪雄 舉達 一抄 梅虬 車大 鹿古

梅の枝をよみし

梅の枝をよみし

梅の枝をよみし

梅の枝をよみし

梅の枝をよみし

梅の枝をよみし

梅の枝をよみし

富山

哥林

深水

曾圓

吐龍

乙竹

來雅

り雁のねよふは

棹さるお舟の

はるの戸を

夜の梅月

ゆゑの

嵐丈

東英

指山

梨三

如岡

石動

素右

梅咲て庭自あしはらひさ
 けくぬの梅あまの雪し
 7 貴る古りきうたきさくま
 11 春るしかてしゆあまの雪
 15 ちんををわらうや油の上
 19 青柳やわさるかたに雨の後
 23 菜のむしむしむしのけり
 27 其嵐

加玉
福町
豈才
可蘭
今壽
斗明
層寸

雪のあてうらふ春は雪
 1 るはらるるたのしむをん
 5 山はたききききくう女の子
 9 春るや月あは信は木うけ
 13 ちんををわらうや油の上
 17 春るしかてしゆあまの雪
 21 ちんををわらうや油の上
 25 春るしかてしゆあまの雪
 29 ちんををわらうや油の上
 33 春るしかてしゆあまの雪
 37 ちんををわらうや油の上
 41 春るしかてしゆあまの雪
 45 ちんををわらうや油の上
 49 春るしかてしゆあまの雪
 53 ちんををわらうや油の上

城端
 高平
 生池
 田郎主
 岩瀬
 惠久我
 水橋
 文器
 高岡
 釜農
 戸出
 玉可
 加納
 米臺

あつしと山をゆるしむの音

宇出津

碩茂

雪のちのほろほろし

馬場

玉史

そよよの根のちからぬ春の水

大澤

時椿

はらばらなを身はら

鶺鴒川

之楓

山に花の形は頬白の桜

甘谷

しほりつらと並みの梅椿

東武

金令

まふやふとみえぬ花の中

浪華

無一

梅のまを統もそよよの雀

越前本保

文鯉

さるるやうの起る後し

閑く

子ゆふく平地なる柳

蒼虬

春のよ水なるしるし

小松

孤舟

くさくさよしのしる梅のひ 高松 味首

はくろくぬあそくつて梅の花 高松 自明

唇のくさくさあつたのも 森下 文昌

杖のくさくさあつたのも 中条 玉宇

山一のくさくさあつたのも 中条 子亨

春はあつたくさくさあつたのも 福富 此山

くさくさあつたのも 松任 濟河

たるあや靴あつたのも 東郊

髪もあつたのも 黙郎

くさくさあつたのも 寺井 互石

おのくさくさあつたのも 温更

葉とて花の葉をいへるてあ
 新くつくもゆめはのさすも
 水も折らぬの信のしるれ
 あしはけいぬやんの妻の形
 鏡の山おのるの白の月
 橋の古木よりあゆむは
 月おのるのまのいふはあつて
 山 園 舟 制 十 山 儂

喜ぶもくしんかふつあつて
 子おのる松きらゝあつて
 流ら橋もさすあつて人いふし
 ゆめりしつねあつて
 さゆらうていふておの月また
 今もあつてまの葉を儲ける
 北舟 兔園 亀十 仲制 和儂 眉山

鴨のしらばね水くさくさ

僊

ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

制

二日の渡鳥よおつて

十

君の代りよらん柳の葉うら

園

ふらふら蝶の影の影

舟

早草と蛙の音も雨つ夜

本吉
中制

色よぬの垣のうらあふ赤梅

和僊

若柳のなつらうさまた紙のぬ

陸海

花かひひ人のちきさうくさるぬ

亀十

あしあしあしあしあしあしあしあしあし

春輝

月よめお返るさう梅の花

鬼園

おもあしあしあしあしあしあしあしあしあし

吳春

死なぬあしあしあしあしあしあしあしあしあし

北舟

十三

863
88

平太右衛門林鶴之丞

烏丸下五番之内

勝田の長也

14166

文化四丁卯のゆ



花菜苗也人のこゝろをさぬては

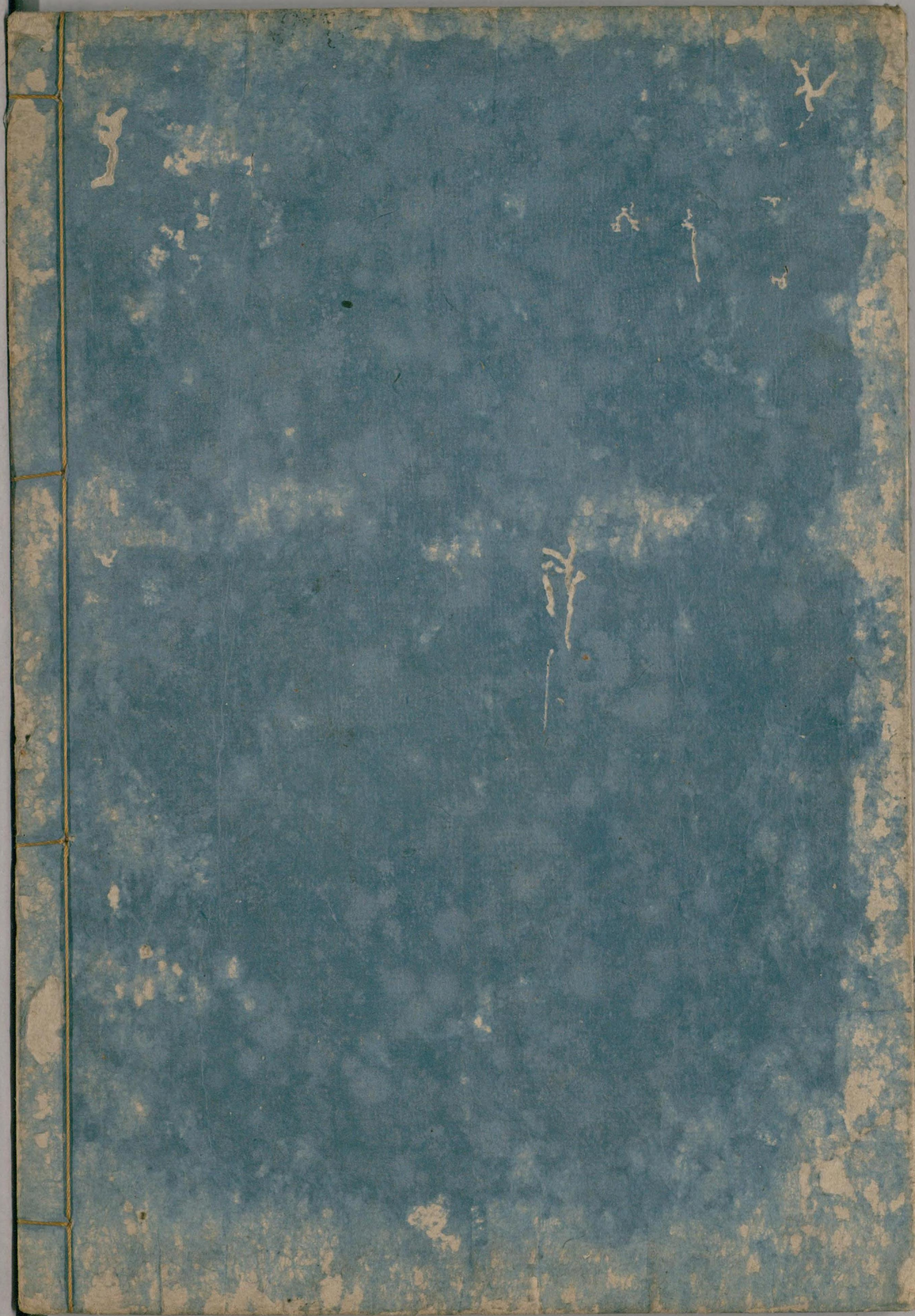
眉山

十ふらふらぬく梅はさくらと

九泉

雁あゝとさるぬ里の花はさくら

箕翁



国立国会図書館 タイトル『花の兄』 請求記号 863-88

ガラス使用